

万次郎人生の概観⑱

「欧州視察中にホイトフィールド船長との再会」

(1) ニューヨークの宿泊先からホイトフィールド船長宅へ

遣欧視察団一行は、明治3年(1870)10月28日ニューヨークに到着した。万次郎は、ニューヨーク港からロンドンへの船便待ちが数日あったので、フェアヘーブンのホイトフィールド船長宅を再訪することにした。

10月30日朝、宿泊先を出発。ニューヨークから北に約200キロ離れたフェアヘーブンをめざした。行きは鉄道、帰りは「Fall River Line」というボストンとニューヨークを汽車と夜行の蒸気船で結ぶルートで帰ったと推測されている。林有造の日記に「(午前)九字(ママ・九時)中濱氏帰る」とあり、ロンドン行きの船便が出港する前日11月1日に宿舎に戻った。このことから夜行便で帰った可能性が高い。

(2) 船長との21年ぶりの再会

21年ぶりに万次郎は船長と再会した。このとき万次郎は43歳、船長65歳。船長夫人や娘アルバティーナ(17歳)、息子マーセラス(15歳)ともあいさつを交わしたことだろう。恐らくは、船長宅で夕食に招待されたことだろう。夕食はクラムチャウダー(イングランドの郷土料理であるハマグリのシチュー)だったかもしれない。万次郎が船長宅に泊まったのは僅か1泊であったが、積もる話は夜更けまで続いたに違いない。

お土産として、船長一家に絹の服地、友人や知人には日本の貨幣を万次郎は持参した。万次郎に英語を教えたアレンもその貨幣を貰い、その貨幣は子孫に受け継がれ、現在、ミリセント図書館に寄贈され今も大切に保存されている。

船長も、万次郎もまさか再会できるとは考えていなかったであろう。現在でも日本からフェアヘーブンに行くことは大変な行程である。ニューヨークからワシントンで国内線に乗り換えなければならない。ボストンからフェアヘーブンまで車で1時間以上はかかる。

飛行機もない153年前、江戸からフェアヘーブンに行くことなど不可能に近かった。欧州視察はまさに千載一遇のチャンスであった。船長は万次郎にとって

米国の父ともいうべき存在であった。

(3) 万次郎・^{のうこうそく}脳梗塞を発症

足の潰瘍のため欧州視察を途中で断念した万次郎は、治療に専念した。これ以降、公務の表舞台から外れる。潰瘍も数か月後には縮小し、自然に治癒した。この間、土佐藩邸に顔を出したり、英語を自宅で教えたり、捕鯨についてその従事者に講話したりと好きなことをして暮らした。

明治4年(1871)44歳の時に、突如軽度の脳梗塞を発症する。一時は言語が不明瞭となり、下肢の麻痺が見られたが、数か月間のリハビリにより、言語も正常に戻り、歩行できるように回復した。これから自宅や鎌倉の別荘でゆっくりと過ごしようになった。今でいう「隠居」生活である。

◎「土佐清水市立市民図書館講座」を開講 「中浜万次郎講座 ～初級編～」

10月29日(日) 13:30～15:00 土佐清水市立市民図書館・2階視聴覚室

講師：土佐清水市教育委員会生涯学習課
市史編さん室 田村 公利

事前申し込みが必要です。

市民図書館 TEL. 0880-82-4151 (山下・田村) まで申し込みを！

市民図書館歴史講座

中浜万次郎講座～初級編～

郷士の先人、中浜万次郎について、人生の軌跡を深く広く学習します。
講座の前半は、沖繩のジョン万上陸地の話。後半は、年表を見ながら
社会科の授業のような形式で万次郎の足跡を振り返ります。
万次郎や歴史に興味のある方はどなたでもぜひ、ご参加ください。

日時: 令和5年10月29日(日)
13時30分～15時00分(質疑応答含む)

場所: 土佐清水市立市民図書館 2階視聴覚室

講師: 田村公利氏(生涯学習課市史編さん室 室長)

定員: 20人(※要申込) ●参加無料●

※お申込み・お問合せは
土佐清水市立市民図書館(0880-82-4151)まで

〒787-0306 土佐清水市幸町 4-19